



《今回のテーマ》は

「稼ぐ力」とは？……トヨタ、上場企業で初の純利益2兆円！

お客様とお会いする時の参考情報としてご利用ください

トヨタ自動車の2015年3月期の連結純利益（米国会計基準）が、上場企業で初めて2兆円に乗せる見通しである。11月5日、14年4～9月期決算とあわせて通期予想の上方修正を発表した。

今期の売上高は従来予想から8000億円引き上げ、前期比3%増の26兆5000億円、純利益はこれまで2%減の1兆7800億円を見込んでいたが、一転10%増の2兆円と過去最高を更新する見込み。

消費税増税後の内需低迷により国内販売は減少したが、北米販売が好調なこと、また円安による為替差益も大きく、加えてリーマンショック後の経営体質改善が寄与した。

ご存知のように、トヨタは昭和25年に倒産の危機に瀕している。過剰生産による過剰在庫という苦い経験から、①無駄なものは作らない②在庫を持たないことを徹底、「売れるモノだけを生産する」ことに大転換を図った。最近ではリーマンショック後の赤字転落や米国での大量リコール、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断を経験したこともあり、非常時の部品調達リスクを軽減するための「サプライチェーンの強化」、「生産」においてはトヨタのDNAとも言うべき「トヨタ生産方式」、すなわち「自動化」と「ジャストインタイム」を基本とした「モノづくり構造改革」に取り組んでいる。

トヨタの「アニュアルレポート（2012）」によれば「モノづくり構造改革」には、①オーダーに基づき「1個ずつつくる（1個流し生産）」②需要に合わせて「売れるスピードで作る」、③「少ない生産規模で設備を構える」ことの3本柱があり、「小規模でも安くつくる」ため、「正味率（※）を上げる」、「汎用性を上げる」といった取組みがなされている。

（※）正味率：付加価値を上げる時間、材料歩留りなど最終アウトプットで有効に使われているものの割合

また、国内300万台生産体制を維持し、東北のグループ3社を統合して「国内3極体制」を構築し、「中部」を新技術・新工法のイノベーション技術開発拠点、「九州」をミディアムクラス・レクサスブランドといった高品質・高付加価値のクルマづくりの拠点、「東北」はコンパクトクラスの生産拠点とし、相互作用を通じた環境を確保し、国際競争力を一層強化するとしている。

政府の「日本再興戦略」において、「稼ぐ力」すなわち企業の収益力強化を取り戻すことが掲げられている。日本の企業の収益力強化策として、「トヨタ」がその方向性を示している。

☞「JRS経営情報」の「かんたん検索」画面でキーワードを「トヨタ」と入力してみてください。下記のコンテンツ以外に、約100件程度のコンテンツが検索されます！

JRS経営情報の中から、次に掲げるコンテンツを参考にしてください。

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ○「トヨタ生産方式」が生まれるまで | (2007-0763) |
| ○「トヨタ生産方式」を支える4本の柱 | (2007-0762) |
| ○JIT (Just In Time)生産方式の全体 | (0105-1802) |
| ○受注してから製造する仕組みを創れ | (2014-0289) |
| ○カイゼンを行える企業の特徴 | (2007-1565) |
| ○生産管理改善による企業再生／トヨタシステムへのチャレンジ | (0101-1901) |
| ○コストダウンは明るいケチの精神で | (2007-0164) |
| ○7つのムダってなんだ？ | (2007-0796) |

()内は情報番号です

なお、お客様にコンテンツを提供される場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。また、お探しの情報が不明な場合はご連絡ください（☎0120-89-0240）。